

# Campus News

静岡理工科大学 広報誌 [キャンパスニュース]

2015

1

Vol.45

## 特集

- 地域学の開講
- キャブストーン・デザインキャンプの開催
- 学生の課外活動報告



サークル間で新たな交流を!

平成26年9月19日(金)「サークル間交流会ー夏の陣ー」を開催しました。当日は、たくさんの学生が集い、バーベキューを通じてサークル間の親睦を深めました。



静岡理工科大学

輝く未来へ  
はばたく力を





# 学長挨拶

## 袋井市冠講座授業「地域学」の意義と効果

学長 野口 博

地域で活躍できる「ローカル人材」の育成に力を注ぎ、地方へ移り住む若人を増やすのに必要な、安心して働き、子育ても出来る環境づくりにも役立つ人材育成も視野に入れ、袋井市の冠講座としての「地域学」の授業を、昨年8月に開講できました。

授業の目標としては、次のことを目指しました。

- 1) 「地域学」では、まずは“袋井市”を知ることから始まる。
- 2) 講義で学ぶだけでなく、袋井市内をキャラバンして訪ね、地域の資源及び問題点を調査・分析することによって、袋井市の「まちづくり」に貢献することを目指す。
- 3) 袋井市に愛着を持ってもらい、大学と地域の関係を身近なものにしていく。

なお、袋井市長の原田英之先生に「袋井市概論」を、袋井商工会議所会頭の豊田富士雄先生には、「一緒にやらまいか！人づくり・まちづくり」を講義頂きました。その後、学生達は、袋井市の職員の方々のご指導により、袋井市内の見学・調査を行い、次のタイトルの課題解決の方策についての発表会が行われました。

- ①住みよい街、袋井へ～駅北商店街の活性化～、②私が歩きたい町 袋井、③The 袋井ロード～歩く青春～、④袋井駅から始まる親しみやすい街づくり～市外からの集客と地元の活性化～、⑤商店街改造計画!!～学生の街 袋井へ～、⑥静かな街づくり～過疎ってたっていいじゃない～

これらの調査研究のプレゼン発表の成果としては、袋井市の視点からは、若者の視点や感性を活かした、今ある袋井の魅力を発信できる企画や提案を受けることができました。また、大学の視点からは、学生が在学中に「袋井」という地域を学ぶことで、袋井に対する愛着を持つことができたことが挙げられます。

優秀発表作品には、袋井市長賞、および静岡理科大学・学長褒賞を授与しました。

この「地域学」の授業を、袋井市と大学との包括連携協定に基づく事業として展開することで、学生と市職員がともに学び、相互理解を深めることができ、袋井市政の発展と地域に開かれた大学づくりに寄与することができました。

今後とも、この「地域学」の授業を、継続的に、かつ発展的に実施していきたいと思っております。

## 遠州灘

iPhoneなどのヒットにより、今や日本でもアップルという企業名が多くの人に知れ渡っています。そのアップルは世界的に大成功を収めていますが、その成功の裏側には、「全てが“Why”からスタートしている」という秘訣があるようです。アップルが魅力的なのは、“What”ではなく“Why”が中心にあるからであり、“Why”が提示されているからこそ、その商品を買うという行動が起こると分析されています。人の行動を促すには、目的や理由を明確にし、それを最初に提示することが不可欠であるという事なのかもしれません。私たちは学生の成長と成功を心から望みますが、まずは私たちが普段の仕事や授業の中で、率先して“Why”を提示する必要があると感じました。(K)

# 袋井市冠講座「地域学」の開講



平成26年8月4日(月)・6日(水)・19日(火)・20日(水)の4日間、本学と袋井市の包括連携協定の一環である、袋井市冠講座「地域学」を初めて開講し、30名の学生が受講しました。この「地域学」は、本学学生が「袋井」の地域を学び、袋井市との関わりを意識することで、在学中さらには卒業後も、袋井市に愛着を持ち、より地域との関係を身近なものしていくことを目的に開講しました。

今回は、袋井市が推進する「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト」をメインテーマに、原田袋井市長、豊田袋井商工会議所会頭から袋井市の歴史や現状について学んだ後、地域資源や問題点を調査・分析するため、6グループに分かれて袋井駅や駅周辺の商店街でのフィールドワークを行いました。その後、袋井市職員からもアドバイスを受けながら政策提言を作り上げ、プレゼンテーションを行いました。

11月21日(金)、特に優れた政策提言を行った2つのグループに対して「市長賞」と「学長褒賞」が授与されました。6グループから提言された内容は、今後袋井市のまちづくり政策において実現化に向けた検討をされることになっています。受賞者は以下のとおりです。

## 市長賞

### 提言テーマ 静かな街づくり袋井

#### 〈提言内容〉

豊かな自然と公園や教育・保育施設を生かした子育てなどがしやすいまちづくりを考え、公園とウォーキングコースの一体整備、太陽光発電利用のイルミネーションで駅周辺を明るくすることを提言

|         |    |    |    |
|---------|----|----|----|
| 機械工学科   | 1年 | 男神 | 徹  |
| 電気電子工学科 | 1年 | 渡井 | 綾基 |
| 総合情報学部  | 1年 | 磯部 | 太郎 |
| 総合情報学部  | 1年 | 佐藤 | 南斗 |



(左から)原田袋井市長、市長賞受賞学生(4名)、野口学長

## 学長褒賞

### 提言テーマ 袋井駅から始まる親しみやすい街づくり

#### 〈提言内容〉

市外からの集客と地元の活性化をテーマに、会員制交流サイト(SNS)を使ったイベントや商店街情報の発信、空き店舗を活用した地域住民との交流を提言

|         |    |    |    |
|---------|----|----|----|
| 機械工学科   | 1年 | 鈴木 | 裕和 |
| 機械工学科   | 1年 | 池田 | 雅仁 |
| 機械工学科   | 1年 | 内田 | 未来 |
| 機械工学科   | 1年 | 新村 | 磨矢 |
| 物質生命科学科 | 1年 | 池田 | 恵里 |



(左から)原田袋井市長、学長褒賞受賞学生(5名)、野口学長



### 渡井 綾基 (電気電子工学科1年)

今回、地域学を受講するにあたり、「袋井市をどのように変えれば活性化するか。」を課題とし解決に努めました。まず、私たちは袋井市には自然が多く既存の設備が多いこと、それらの設備がうまく活かされていないということに着目しました。そこで私たちは既存の設備を活かした町作りを考え、袋井市民の方々を大切にす町作りを考えました。

今後は、地域学を通して学んだことを活かし、積極的に学業に取り組んでいきたいと思っています。

# キャップストーン・デザインキャンプの開催について

平成26年10月30日(木)から11月3日(月)まで、本学のやらまいか創造工学センターにて、本学の協定大学である韓国大邱（テグ）大学とキャップストーン・デザインキャンプを開催しました。今回、大邱大学内の産学協力を担当するLINC事業団が韓国政府から助成を受け、本共同プログラムが実現しました。

キャップストーン・デザインとは、米国における工学教育手法のひとつであり、この“capstone”はピラミッドのいちばん上に積む石のことを意味します。学びの総仕上げとして何かをデザインすることが今回のキャンプの目的です。

今回は、「スマート福祉技術」をテーマに、両大学合わせて40名の学生が8グループにわかれ、課題制作に取り組みました。キャンプ前からSNSを通して、自己紹介、制作物のターゲットや機能について意見交換を進めてきたため、初日から活発に交流し、すぐに制作に取り掛かる姿が見られました。その結果、本キャンプでは、「音声案内付き点字ブロック」や「脚力を利用した井戸水汲み」「GPS・脈拍・体温計測機能を搭載した育児サポート機器」「自動で食材が取り出せる冷蔵庫」などバラエティに富んだ内容が提案されました。

今回のプログラムを通して参加学生は、技術的学びはもとより英語力、コミュニケーション能力、チームワークスキルと多くのこと経験し、最後はメンバーとの別れを惜しむ姿がありました。



## 参加者の声

寺岡 裕也（機械工学科4年）

韓国の友人たちは、出会った頃は言葉も通じない異国の人でしたが、5日間も共に活動していると常に隣にいる友のような存在になりました。言葉には表せられないくらい充実した、笑顔のたえない素晴らしい5日間でした。また、私たちと彼らの間には国は関係なく強く深い絆が出来ました。いつかまた彼らと会える日がきたらもう一度ゆっくり話をしたいです。



# 学生の課外活動報告

## 学生フォーミュラ大会を振り返って ★学生フォーミュラ大会2連覇

自動車部 (SIST フォーミュラプロジェクト) 前部長 宮野 公美子 (機械工学科 4年)

昨年の大会を終えて、まずはガソリンエンジン車(ICV)と電気自動車 (EV) の2台が競技に参加出来たことに先生方や大学をはじめとする多くのスポンサー様、OBの皆さんへの感謝がこみ上げました。多くの方から学生フォーミュラを通して、物事への取り組み方や自動車の事など、本当にたくさんのお話を学ばせていただきました。

私がチームリーダーを務めた2014年度チーム (2013年9月中旬から2014年の大会まで) では、下級生の人数が多かったため、チーム内の情報共有、報告・連絡・相談などを意識しても



られるよう呼びかけていました。技術的にも機械加工の経験が不足しているからこそ、チーム全員で部品の製作や組み付けを行い、クルマづくりを行って来ました。まだまだチームとしての動き方や技術面で未熟な部分があり改善していかなければなりません、部員全員がさまざまなことに挑戦出来た1年だったと思います。

ICVの順位向上とEVの2連覇の結果は嬉しいですが、それよりもEVの完走と2台の目標順位が達成出来なかったことはとても悔しいです。後輩たちには、2014年度チームの良かった事・悪かった事をじっくり考えて引き継ぎや改善をしながら、自分たちのフォーミュラを作っていってほしいと思います。



## 鳥人間コンテスト2014を振り返って

鳥人間を目指す飛行機研究会 (Sky Traveler) 前部長 原田 和真 (機械工学科 3年)

平成26年7月26日 (土) に滋賀県琵琶湖で「鳥人間コンテスト2014」が開催されました。今回も書類審査を通過し、大会に出場することができました。記録は141mで17チーム中10位、前回の記録には届きませんでした。

頼りになった先輩方が卒業し、全く新しい世代となったSkyTravelerのスタートとしては良い結果だったと感じています。前回の反省点を踏まえ改善できたところもあれば新しい



反省点も見つかりました。

後期より代替わりを行い、僕は部長を電気電子工学科の高塚君に引き継ぎました。かつ

て先輩方が部長としての役割を継承してくれたように、僕も先輩方から教わったことや自身が感じたことをできるだけ伝えていきたいと思っています。

今回も先生方や学務課の職員方、外部の方々など多くの皆様の支援によって、大会でのフライトまでたどり着くことができました。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

**新部長の抱負** 新部長 高塚 裕規 (電気電子工学科 2年)

2年間の半無尾翼機の経験を経て今年は完全無尾翼機に挑戦します。新しいことに挑戦するうえで避けて通れないのは、新たな課題や問題が出ることです。それでもなお問題や課題に真摯に取り組んでいきたいと思っています。



## 電気自動車コンテストを振り返って

千頭和 優斗 (機械工学科3年)

平成26年10月26日 (日) に本学にて「電気自動車コンテスト」が開催されました。

電気自動車コンテストとは、大学から貸与されるモーター (20W程度) と自動車用バッテリーを使用して、4輪以上を有する電気自動車を作製し、1周150m程度のコースで20分間走り続ける耐久レースです。



当日は15チームが参加して、機械工学科グループ・電気電子工学科グループ・オープンクラス (モーターは自由) の3クラスに分かれ

て競技が開催され、全く走行できない車から20分間で60周以上走行ができた車など、様々な結果となりました。

私たちのチームは車のフレームを鉄溶接で製作し、後輪に自転車の車輪を使用し、前輪には小さなタイヤを使用した電気自動車を製作して、最高速度を出せる設計としました。

結果は、残念ながら小回りが利かないため、3位の成績となってしまいました。

今回のコンテストを通して、ものづくりのP D C A (Plan・Do・Check・Action) を学ぶことができ、今後のものづくり活動に生かしていきたいと思っています。



## SIST体験型講座

7月5日(土)、9月27日(土)、本学にて「SIST体験型講座」を開催しました。第1回目は本学機械工学科の野崎准教授が「偏光板の不思議な性質を体験しよう」を行い、第2回目は本学電気電子工学科の服部講師が「手回し発電機付きLEDライト」を行いました。ものづくりを通じた参加者同士の交流もあり、終始笑顔で講座が行われました。



## オープンキャンパス

7月26日(土)・27日(日)・8月3日(日)・23日(土)・24日(日)の5日間、オープンキャンパスを開催し、高校生806名、保護者263名の延べ1069名の参加がありました。学科ごとに体験型プログラムや展示ブースを用意し、多くの来場者に研究内容を紹介することができました。

また、本学教員による模擬授業を行い、参加した高校生たちに大学の講義を体験してもらいました。



## 市民体験入学

8月30日(土)、本学にて「市民体験入学」を開催しました。当日は県内各地から230名が参加されました。全体講義では、気象予報士の天達武史氏が「天気の人から見た地球温暖化」と題して講演を行いました。選択講義の座学講座では本学機械工学科の服部特任教授が、体験講座では機械工学科の吉田講師、電気電子工学科の高橋教授、物質生命工学科の関山教授、コンピュータシステム学科の野村講師、人間情報デザイン学科の友次准教授、情報センターの高林課長、内山職員がそれぞれ講義を行いました。



## 公開講座

10月18日(土)、本学にて「第3回公開講座」を開催しました。

今回は、「自動車の安全と衝突現象を科学する」を共通テーマに、第1部は本学機械工学科の感本教授が「自動車の衝突運動と衝突工学」と題して講演を行い、第2部は富士重工業株式会社スバル技術研究所担当部長の樋渡穰氏が「“ぶつからないクルマ?”スバルが生んだアイサイトの秘密」と題して講演を行いました。



## 大学祭

10月25日(土)・26日(日)の両日、大学祭SISTIVAL'14(大学祭実行委員会主催)が開催されました。お理工塾応援隊によるサイエンスショー、水ロケット体験教室、電気自動車レース、移動動物園、ビンゴ大会などのイベントや、LIFriendsさんと川口直久さんのスペシャルライブ、大道芸ロッキーさんのパフォーマンスなどが行われました。今回も多数の来場者が訪れ、思い出に残る大学祭となりました。



## 地域創成フォーラム

11月25日(火)、ホテルクラウンパレス浜松にて「地域創成フォーラム」を開催しました。本年度より名称を産学官連携フォーラムから変更して初めての開催となり、当日は約250名の参加者が来場され大盛況となりました。特別講演として帝人株式会社取締役会長の八木成男氏が「企業におけるトップのあり方」と題して講演を行いました。

また、本学教員による研究事例発表やパネル展示による研究紹介を行い、来場された企業の方と本学教員が積極的に情報交換を行う姿がみられ、今後につながるフォーラムとなりました。



## SISTコロキウムの新たな試み



大学広報委員長 物質生命科学科 准教授 山崎誠志

SISTコロキウムは、お茶やお菓子を楽しみながら、話題提供者の話を聞いて、ざっくばらんに質問するスタイルで、誰でも気軽に参加できる勉強会です。話題提供者として、一昨年度は、本学教員が自身の研究テーマの中から、一般向けの話題を紹介しました。本年度から、本学教員に加えて、夏休みに近隣の高校生が話題提供者として参加するような試みを行いました。磐田西高校、磐田南高校、袋井高校の生徒さんが、長年にわたる研究や観察記録などを紹介し、どれも聞いていて感心するとともに、高校生のポテンシャルの高さを実感する会となりました。

### 話題提供者の声

磐田西高校 科学部1年  
須田 成人さん

私は、「アマガエルの皮膚の色の研究」について発表し、研究の中で各体によって模様が異なることや、時として予想しなかった結果となることについて述べました。

この発表で、緊張しても堂々と発表すれば失敗することが少ないことや、うのみすることで失敗することなどを学びました。

今後は、田んぼやどぶにいるアマガエルやオタマジャクシを繁殖させ、その子供の模様に「メンデルの遺伝の法則」のように、模様に優性と劣性があるのか、それともランダムで決まるのか調べていきたいと思っています。



### 地域産業の即戦力に期待!

ヤマハモーターエレクトロニクス株式会社  
業務統括部 総務部

永田 和広さん

当社は、森町にあるヤマハ発動機グループの電装品開発・製造会社で、エンジン電装や電動車両の制御、モーター技術でグループを支えています。

貴学出身者7名が、製品開発、生産設備、品質保証などのエンジニアとして、ものづくりの最前線で活躍しています。

「モノから入った人材は、強い。」というやрмаいか教育の方針は、我々が求めるエンジニア像とも合致しますし、産学官のコラボレーションややрмаいか創造工学センターなど、実力が培われる環境も整っています。学生の皆さんには、学んだ理論を自分の手で実践できる技術者として、地域産業の即戦力になって欲しいと期待しています。

我々も、地域に根付き、地元貢献できる企業であり続けるよう活動してまいります。



### 意思を持った社会人として

NPO法人 静岡県災害支援隊 理事

近藤 佳裕さん

私は2007年の静岡理工科大学卒業生で、本年度は実践技術者講座の講師を務めさせていただきました。

静岡理工科大学は静岡県下で理工系の学科のある数少ない大学の一つです。静岡県の理系分野産業の将来は、理工科大生の皆さんにかかっていると言っても過言ではありません。にもかかわらず、自分に自信のない学生さんが多いように見受けられます。趣味の事でも、バイトなど人生経験の事でも、なんでも良いです。是非、自分に自信を持って、胸を張って学生生活を送っていただきたい。そういった自信の中から、生きる目的を持った人間像を確立して、前向きな人生を送って頂きたいです。

社会は今、本当に若い力を必要としています。ぶら下がる形で社会と関わっていくのではなく、能動的に「自分が社会を動かしていくんだ!」という強い意思を持った社会人になるべく、大学時代を過ごしていただきたいと思います。



カネ美食品株式会社 富士中央店

八木 拓身さん

(人間情報デザイン学科第3期卒業生)

## 活躍する卒業生

私の勤務する会社はカネ美食品株式会社です。スーパーや駅構内にテナントを構え、惣菜や寿司の製造・販売を行っております。また、工場も持っており、そこで製造した商品をコンビニエンスストアに納品しております。

今の私の仕事に学生時代のインターンシップが影響しています。大学3年生の時、惣菜の製造・販売の研修をさせていただきました。はじめてやることなので、ミスをしてしまったり、綺麗に製造することができませんでした。ですが、お客様に自分の製造した商品を手にとって購入して頂いたときは、とてもうれしかったです。この経験がきっかけで今の仕事に興味を持ちました。

現在の仕事は、商品の製造・販売は勿論のこと、売り場の管理に焦点をおいて、売れるものと売れないものを長期的に見ていき、最終的に売れる商品の食材を多く発注するよう心がけています。また、天候などによってお客様の数が左右される場合もあるので、製造する量を増やすのか、減らすのかの判断を毎日しています。

今後は、まだまだ覚えなければいけないことがあるので、それを自分のものとし、最終的には店長として店を運営していければと考えています。

## 授業の紹介



環境新素材実験2では、環境問題、エネルギー、材料(素材)について、実験を通じて学ぶことを目的としています。例えば、我々が身近に利用している金属や高分子の強度に関する物性を「弾性・塑性」というテーマで実験を行います。また、人工骨の材料となるヒドロキシアパタイトを実際に合成し、物性を調べる実験や、生分解性プラスチックを合成し、分解挙動を調べる実験があります。そして、クリーンエネルギーとして注目されている太陽電池を作成し、発電の仕組みや物性について評価します。さらに、環境に関するテーマとして、身近な土壌や水を対象として環境放射線計測を行い、放射線に対する正しい理解を深め、また、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスを吸着できるゼオライトを合成し、吸着作用について理解する実験があります。全ての実験日程を終了すると、学生が一つのテーマを選択し、発表会を行います。発表のスライドをまとめることで、実験内容をより理解し、プレゼンテーション能力を高めることを目指しています。

## 環境 新素材 実験2

担当教員：物質生命科学科 教授 吉田 豊、准教授 山崎誠志、教育指導員 小杉邦雄

## 電気電子工学科 山本研究室

センサーと電子回路の研究室です。電子回路は電子デバイス、電気回路学、制御工学などの応用工学であるため(そのため、何でも屋になってしまう面もあります)、卒研生はこれらの基礎工学の理解を深めるためにゼミでの演習を進めながら研究課題に取り組みます。モータのセンサレス化、高寿命LED照明回路、インターネット越しの触覚再現などが最近の研究課題です。様々な研究課題があるわけですが、卒研生は電子回路の基礎を固めて卒業していきますので、指導者としては様々な分野での活躍を期待しています。電子回路の応用分野は無限にあります。回路の勉強を進めながら、センサーやロボットの問題解決をしたい人に向いている研究室だと思います。

# おじゃまします。

研究室  
訪問  
33  
回



## 研究室学生からひとこと

佐野 真和・山口 涼右 (電気電子工学科4年)

触覚再現・SRモータ・ワイヤレスLED・LED照明回路・自然言語解析・高電圧回路等、様々な実験を行っています。それぞれ研究内容は違いますが、シミュレーションや計算等、研究室の仲間同士で学ぶ事もあります。今期は全員過去の研究の引き継ぎではなく、新しい研究を行っています。その為、研究室の配置も自分たちでアレンジしなおしました。その都度形を変えて、自分達の研究環境を変化させることができるのもこの研究室の魅力かもしれません。

## 山本 健司先生のプロフィール

上智大学大学院修士課程修了。医用電子工学(ME)を学び、ヒューレット・パカードにて電子計測回路、集積回路の設計を技術開発部で担当していました。現在は一般的な電子回路応用を研究していますので、実応用や実生活に役立つ、あるいは問題解決のできる電子応用を研究していきたいと思っています。

## 「片浜区避難地防災マップ」の 作成に協力しました。



山本研究室では山本講師の指導の下、牧之原市立片浜小学校の児童の皆さんが作成した片浜区避難地防災マップに、避難場所が一目でわかるLEDライトを使った回路の作成を行いました。

避難場所ごとに「個別」スイッチを押したときにはその避難場所のLEDが点灯し、「全部」スイッチを押したときにはすべてのLEDが点灯する回路をダイオードマトリクスという回路を使って設計した上で、回路シミュレーションを通しての動作確認や配線を行いました。電線の数が多く、引き回しに苦労しましたが、学生たちにとってもダイオードマトリクスや抵抗値の計算など、大変よい勉強になりました。

12月13日(土)には片浜小学校で開催された学習成果を発表する「浜っ子発表会」に山本研究室の学生が招待され、小学生と交流を持つことができました。

## 学長特別表彰・学部長表彰・学生部長表彰

1月26日(月)に、優れた活躍や学生の模範となる顕著な成績を上げた学生に対する「学長特別表彰・学部長表彰・学生部長表彰」を行いました。受賞者・団体は以下の通りです。

### 学長特別表彰

- 団体 **自動車部** (SISTフォーミュラプロジェクト)  
第12回全日本学生フォーミュラ大会  
EV部門 優勝

### 学部長表彰

- 個人 **榑松 愛理** (物質生命科学科3年)  
甲種危険物取扱者 合格
- 団体 **Machine Creator's Factory** (M.C.F.)  
第4回キャチロボバトルコンテスト 審査員特別賞

### 学生部長表彰

- 個人 **鈴木 優弥** (機械工学科3年)  
第30回、31回袋井市テニスシングルス大会 個人 優勝
- 個人 **小長谷亮太** (総合情報学部1年)  
第31回袋井市テニスシングルス大会 個人 第3位
- 個人 **津川 友樹** (物質生命科学科3年)  
静岡県下学生弓道選手権大会夏季大会 個人 第5位
- 個人 **増田 将知** (電気電子工学科3年)  
平成26年度東海地区静岡学生野球秋季リーグ戦  
ベストナイン遊撃手
- 個人 **高木 力也** (電気電子工学科3年)  
第三種電気主任技術者 合格



## 入試広報 NEWS

### 進路選びはWebサイトを活用しよう!

本学に関心をもたれた皆さん。

まずは、Webサイトで本学をCheckしてみましょう。

#### ■理工科大生の“今”がわかる充実の「受験生サイト」

受験生サイトでは「5学科在学生のインタビュー映像」を配信しています。学科選択のポイントや学生サポートシステム、所属研究室の紹介や女子学生の活動団体RikejoCafeの活動など理工科大生の思いに迫っています。

大学案内や研究室紹介などの冊子に加えて、これらの映像をご覧いただければ、本学への興味がより一層深まることでしょう。

\*受験生サイト (<http://www.sist.ac.jp/navi/index.html>)

#### ■学費の負担を大幅軽減!理工科大のスカラシップ入試

学費の負担を大幅に削減するのが、本学の給付型奨学金制度「スカラシップ50・100」です。国公立大学程度の学費負担で、アルバイトに時間を取られることなく、伸び伸びと学べます。

詳細は受験生サイト内、「給付型奨学金制度のご案内」(<http://www.sist.ac.jp/navi/ship/index.html>)をご覧ください。

#### ■春からの進路イベントで理工科大をCheckしましょう!

「春休み大学見学会」では本学の特色などの概要説明や研究施設などの見学、入試情報などを提供しています。また、祝日開催の「Weekday大学見学会」では、普段の授業や研究の様子をご覧いただくことができます。

～今後の日程～

- 大学見学会 3/25(水) 13:00-16:00「テーマ:大学を見てみよう!」
- Weekday大学見学会 4/29(祝)「大学の授業に参加してみよう!」



# 「静岡理科大学 産学コラボネット」 設立のお知らせ

平成3年4月の開学以来、本学は、地域企業で活躍する人材育成、産学共同による技術開発・商品開発などを推進してきました。

昨年11月、これまでの活動の成果を踏まえ、本学と地域企業の皆さんとの更なるコラボレーションによって、人材育成、産業振興、更には地域振興へ積極的に関わっていくことをより一層強めるために、産学連携組織「産学コラボネット」を立ち上げました。

「産学コラボネット」では、本学と会員企業、更

には会員企業間の連携を図るために、4つの部会を設けてそれぞれの活動を通して、具体的な人材育成や研究開発を行う場とします。また、支援機関として、行政や商工団体などに参画いただき、「産学コラボネット」の活動に対する助言や支援なども行っていただきます。

是非、「産学コラボネット」へご参加（ご入会）下さい。



詳細については、本学ホームページからご確認ください。 <http://www.sist.ac.jp/news/20141104/index.html>

同窓会  
だより

## 浜松地域支部設立総会の開催

9月27日(土)に「浜松地域支部設立総会」を開催しました。

設立総会のあとは、懇親会も開催され、学生時代を振り返り、貴重な時間を過ごすことができました。今後も、活発な活動を展開していく浜松地域支部にご注目ください。



## ホームカミングデーの開催

10月26日(日)に「第14回ホームカミングデー」を開催しました。

当日は、卒業生やご家族、教職員など約400名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。今回は、新企画の「どきどきクイズ」を通じて、新たな同窓生の輪が生まれ、恒例の「大抽選会」と併せ、大いに盛り上がり、親交を深め合うホームカミングデーとなりました。また、参加者全員で学歌の斉唱をし、久しぶりに大学生気分を満喫する機会になったと思います。

最後に、ご多忙の中にも関わらずホームカミングデーの企画・開催にご助力いただいた同窓会役員の皆様に、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。



## 同窓会ホームページ、facebookについて

同窓会では、ホームページの他、専用のfacebookを開設し、同窓会員や同窓会活動の近況など発信しています。ご覧いただき、同窓生間の交流の手段としてもご利用ください。また、是非「いいね!」をよろしく願いたします。

(同窓会HPアドレス <http://www.sist.ac.jp/dousoukai/>)

(同窓会facebook <https://www.facebook.com/sist.dousoukai>)



後援会  
だより

## 個別面談の開催

10月25日(土)に「父母懇談会」を開催しました。昨年度は台風の影響により中止となりましたが、今年度は天候にも恵まれ、約200名の方が参加しました。全体会では、伊東後援会長並びに野口学長の挨拶の後、株式会社ベネッセコーポレーションの鈴木拓氏をお招きし、「大学生の実態と就職の後倒し」と題して講演を頂きました。午後からは助言教員とご希望のあった約90名の保護者が「個別面談」を行い、教員においても、多くの参考になる意見を伺うことができ、大変有用な機会となりました。

# Rikejo café

## 静岡県少子化対策ユースプロジェクト推進事業におけるワークショップの開催について

平成26年11月9日（日）、本学のやらまいか創造工学センターにて、Rikejo Café 主催の少子化対策を考えるワークショップを開催しました。現在、Rikejo Caféでは静岡県少子化対策ユースプロジェクト推進事業の委託業務として、「リケジョの未来プラン支援」をテーマに掲げ、少子化問題の現状把握と理想のワーク・ライフバランスを見出す活動を行っています。



今回は、これまでに実施した新聞記事からの情報収集や“くるみんマーク”の認定を受けている地域企業の

見学を踏まえ、「理想的な子育て」「若年層の結婚観」「イクメン・イクジイになるためには」「少子化を取り巻く日本の未来は」など6つのテーマを設定し、社会人男女10名、本学の学生男女各10名がグループになりディスカッションを行ないました。

今後、ワークショップおよび業務の仕上げとしてRikejo Caféメンバーが各々人生設計を行ない、理想的な社会づくりを県へ提言していきます。

## スポットライト がんばれ！理工科大生



**大坪 恭平**  
(機械工学科3年)

私は、自動車部でマネジメントリーダーという役職を担っています。マネジメントというと、一般的には簡単に「管理」と訳されますが、人、時間、スケジュールや金銭面など、管理するのは多く、全体を見る眼が必要な役職です。現在、部活動を通してマネジメントの勉強をしています。

今まで私は、マネジメントというような、全体を見て、管理するような責任の重い役には就いたことがありませんでした。目の前の事に集中することに精一杯だった私には、わからない事も多く、迷惑をかけてしまう事も多々あります。そんな私にも、時には気さくに、時には真剣に接してくれるメンバーや先生方をはじめとした多くの方々は、私が大学で得る事が出来たととても大きな財産です。

他大学の学生さんや、スポンサーの方々や先生方と接していて、今の私には足りない要素が多々あることを痛感しました。もう残り少ない大学生活ですが、第13回全日本学生フォーミュラ大会に向けて、社会に出る時に向けて、少しでも人の役に立てる人間に成長できるよう、努力していきたいです。

## サークル紹介

### ソフトボールサークル 部長 奥田 凌 (機械工学科3年)

ソフトボールサークルは、現在12人が所属し、月曜日と水曜日に本学グラウンドにて活動しています。我々ソフトボールサークルは、袋井市のソフトボール連盟に加盟しており、リーグ戦に参加しソフトボールを楽しんでいます。

このソフトボールサークルは、僕たちが1年生の時に設立し、やっと試合が出来るまでになりました。部員の人数は少ないですが、皆向上心があり、試合に出るために頑張っています。昨年のリーグ戦の結果は悔しい結果で終わってしまったので、今年は昨年以上の成績で皆が満足する結果を出したいです。まだまだソフトボールサークルは出来たばかりなので、これからもチーム一丸となって協力し合い、伝統を築き、楽しく活動していきたいです。



## 編集後記

本号では、地域学、キャップストーン・デザインキャンプ、学生フォーミュラ、電気自動車コンテストなど、本学の学生がこれまでの学習成果を外部へ発信する内容が特集となりました。袋井市職員の方々や共同で袋井の活性化を検討した「地域学」、韓国の学生が持ってきた福祉関係のアイデアを両国の学生達が片言の英語で意思疎通し、本学にて両国の学生がミニモデルを共同製作する「キャップストーンデザインキャンプ」など、新しい試みも本年度から始まりました。これからも、学生達が生き生きと自らのアイデアを現実のものにして外へ発信し続けることを願います。(N)

## 静岡理科大学キャンパスニュース

平成27年1月31日発行

企画・編集・発行／静岡理科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

http://www.sist.ac.jp E-mail:c-news@ob.sist.ac.jp

